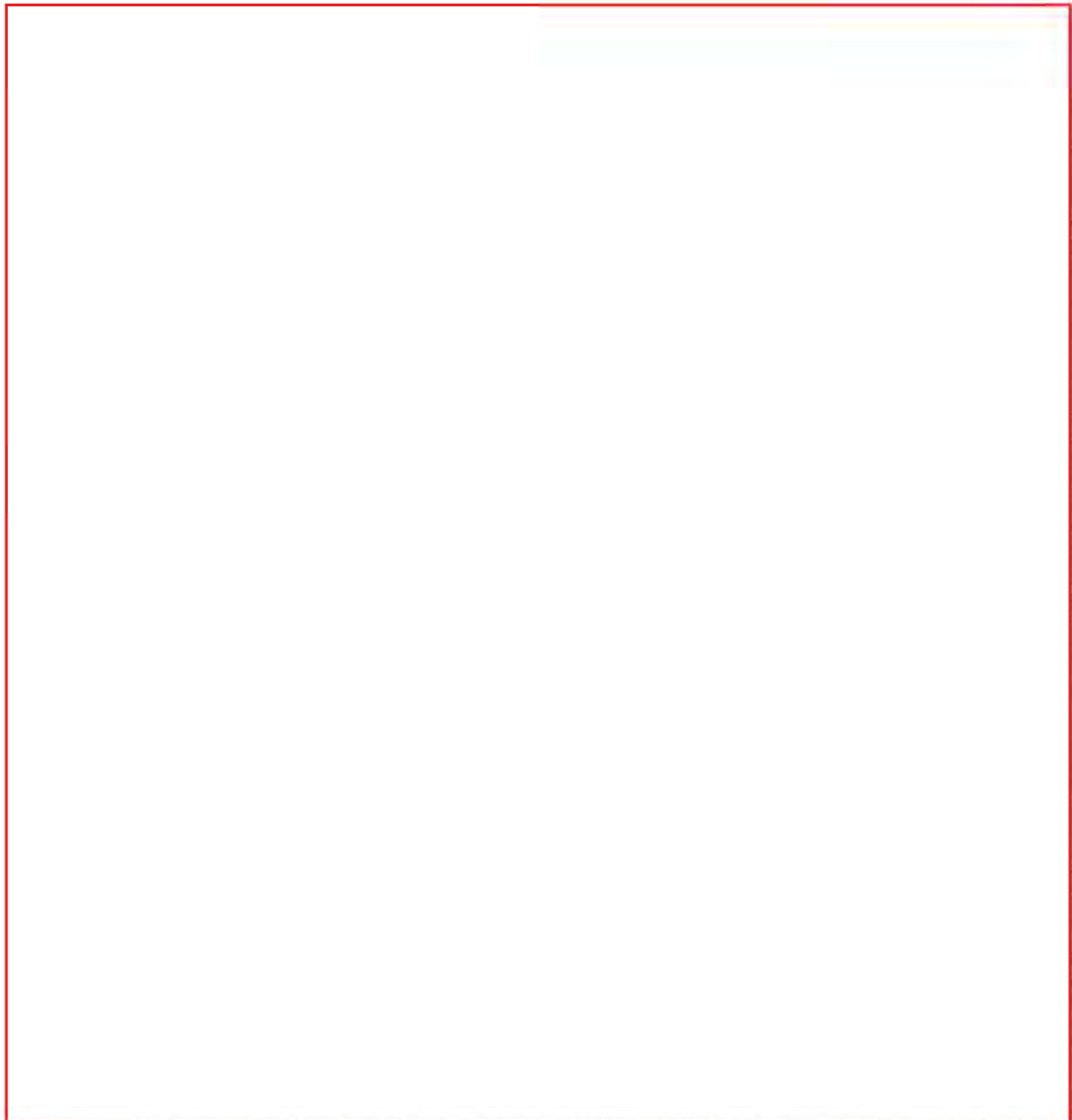




図 6.1.5-16 リュウキュウイノシシの確認位置(G 地区)



凡例

⊖ : 調査範囲 ⊙ : 事業実施区域 — : 沢

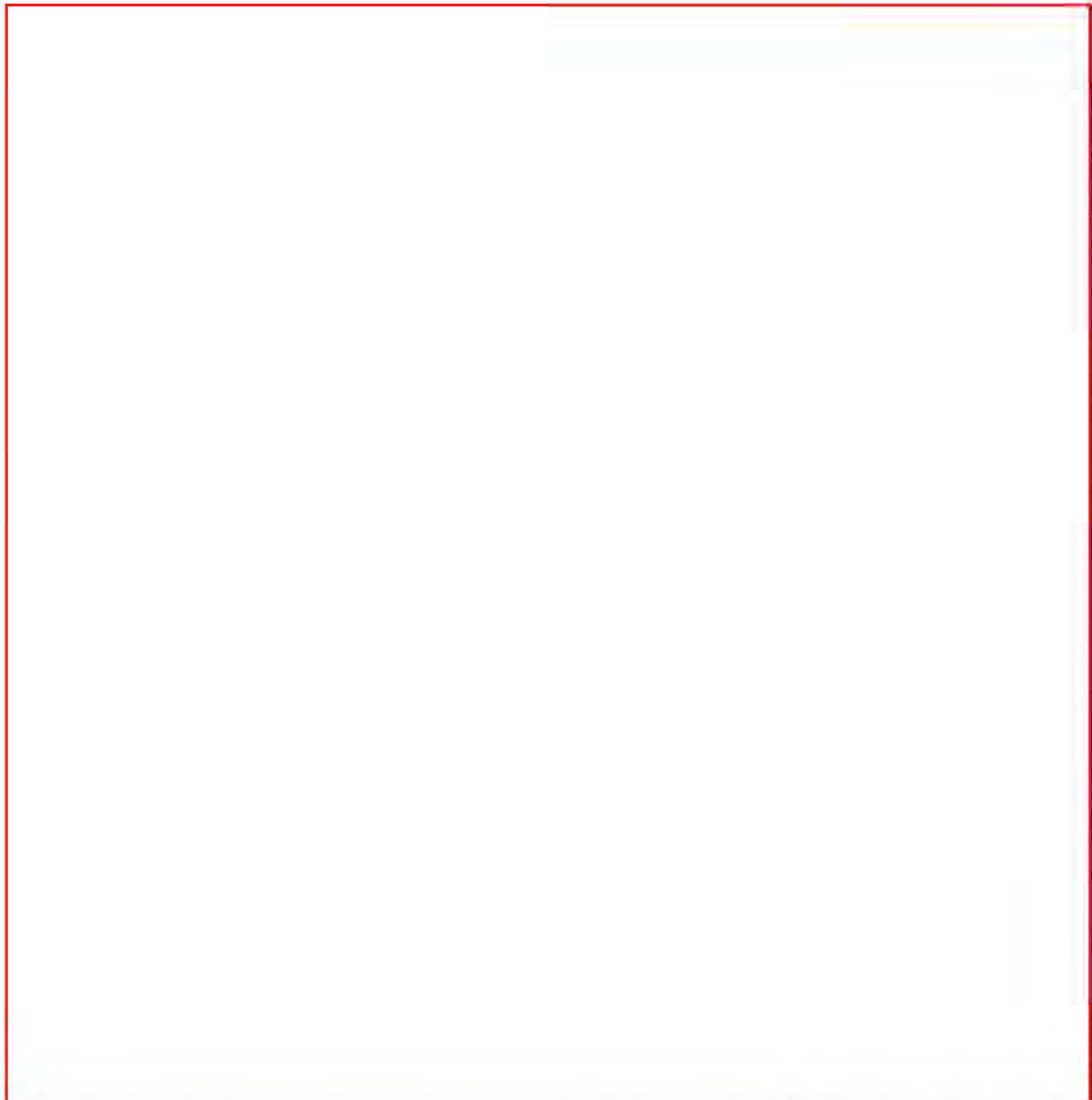
- ⊙ : 足跡
- : 掘り返し
- ⊕ : 糞



0 100 200 300 400m


図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成体1個体。

図 6.1.5-17 リュウキュウイノシシの確認位置 (H 地区)



凡例

 : 事業実施範囲
  : 調査範囲
  : 沢

 : 春季
  : 掘り返し
 : 糞



0 100 200 300 400m

図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成体1個体。

図 6.1.5-18 リュウキュウイノシシの確認位置 (N-1 地区)

g) リュウキュウヤマガメ

リュウキュウヤマガメの確認状況を表 6.1.5-13、確認位置を図 6.1.5-19～図 6.1.5-21 に示した。

リュウキュウヤマガメの産卵時期は、4月から始まり数ヶ月続き、7月頃から孵化した個体を確認されることが知られている。

G 地区では、を中心に成体個体を確認された。幼体の確認はなかった。確認地点は着陸帯周辺の広範囲に及んでおり、調査地区全体に生息しているものと考えられた。

H 地区では、を中心に成体個体を確認された。幼体の確認はなかった。確認地点は着陸帯周辺の広範囲に及んでおり、調査地区全体に生息しているものと考えられた。

N-1 地区では、を中心に成体個体を確認され、そのうち個体は幼体の確認であった。確認地点は着陸帯周辺の広範囲に及んでおり、調査地区全体に生息しているものと考えられた。

表 6.1.5-13 リュウキュウヤマガメの確認状況

G地区

区分/季節		令和2年度 春季
個体の 確認	成体	<input type="text"/>
	幼体	
	計	

H地区

区分/季節		令和2年度 春季
個体の 確認	成体	<input type="text"/>
	幼体	
	計	

N1地区

区分/季節		令和2年度 春季
個体の 確認	成体	<input type="text"/>
	幼体	
	計	



図 6.1.5-19 リュウキュウヤマガメの確認位置(G地区)

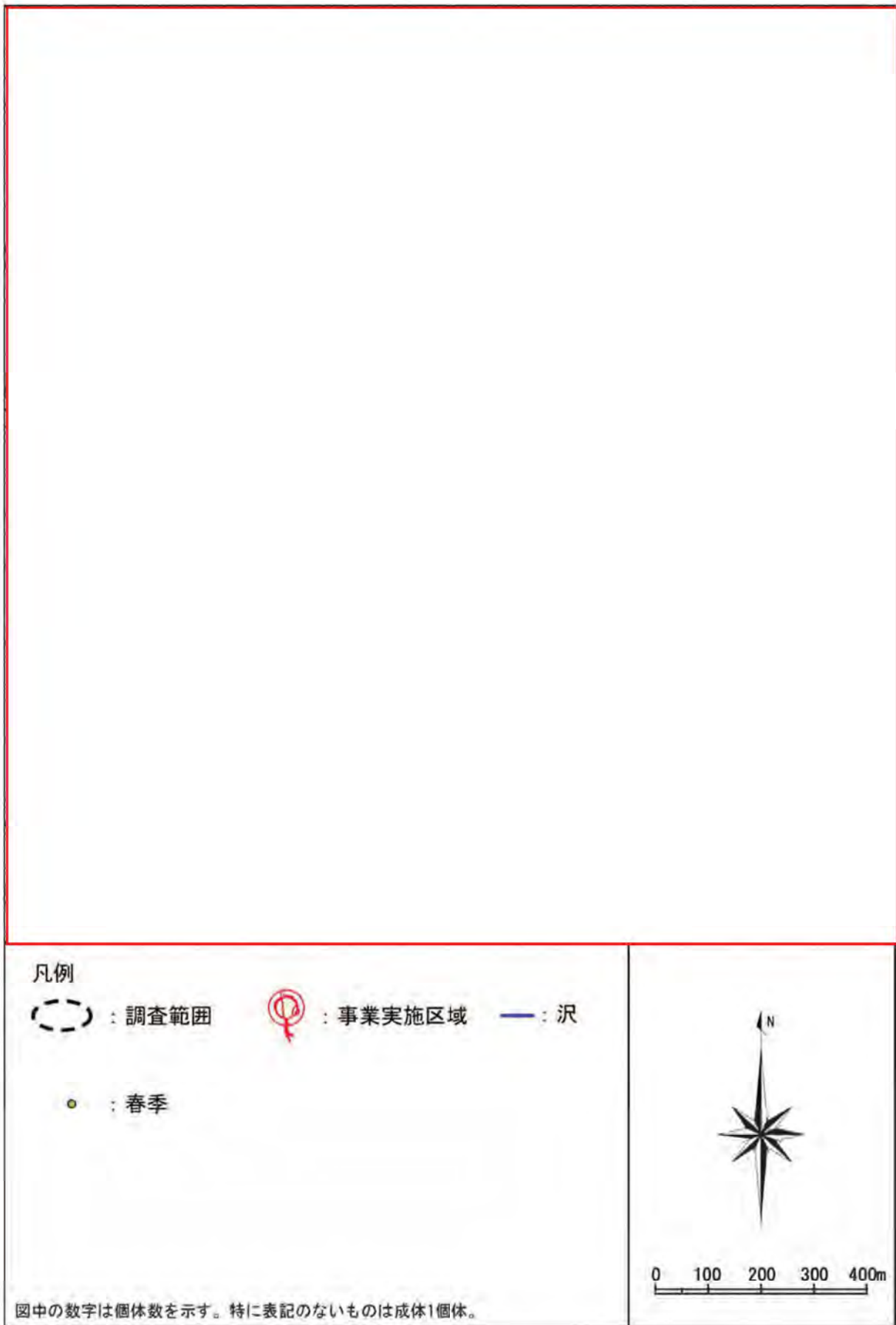


図 6.1.5-20 リュウキュウヤマガメの確認位置 (H 地区)

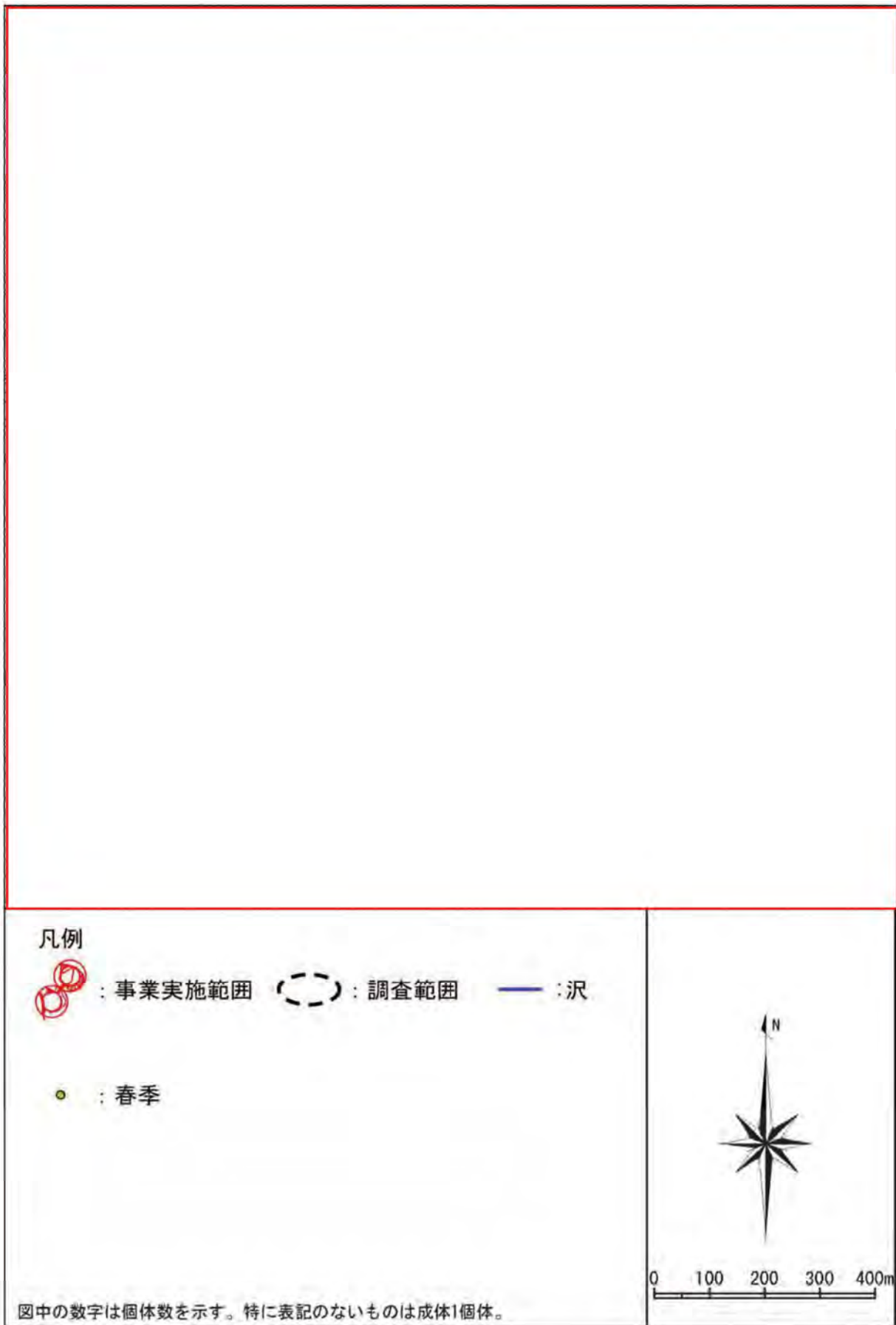


図 6.1.5-21 リュウキュウヤマガメの確認位置 (N-1 地区)

h) ハブ、ヒメハブ

ハブとヒメハブの確認状況を表 6.1.5-14、確認位置を図 6.1.5-22～図 6.1.5-25 に示した。

ハブは、G 地区のみで確認され、成体 1 個体の確認であった。

ヒメハブは全 3 地区で確認され、確認個体数は、G 地区 17 個体、H 地区 10 個体、N-1 地区 9 個体であり、幼体の確認はなかった。確認地点は着陸帯周辺の広範囲に及んでおり、調査地区全体に生息しているものと考えられた。

表 6.1.5-14 ハブとヒメハブの確認状況一覧

G地区

区分/季節		ハブ		区分/季節		ヒメハブ	
		春季				春季	
個体の 確認	成体	1		個体の 確認	成体	17	
	幼体	0			幼体	0	
	計	1			計	17	

H地区

区分/季節		ハブ		区分/季節		ヒメハブ	
		春季				春季	
個体の 確認	成体	0		個体の 確認	成体	10	
	幼体	0			幼体	0	
	計	0			計	10	

N-1地区

区分/季節		ハブ		区分/季節		ヒメハブ	
		春季				春季	
個体の 確認	成体	0		個体の 確認	成体	9	
	幼体	0			幼体	0	
	計	0			計	9	

注 1) 目視で約 100cm 以下の個体とした(ハブは全長約 40cm で孵化し、最小成熟雌は約 105cm)。

参考: 沖縄県中部保健所資料、ハブはこんな動物。

(<http://www.pref.okinawa.jp/site/kodomo/hoken-chubu/eisei/kankyoeisei/33habu/hbbiolgy.html>)

注 2) 目視で約 40cm 以下の個体とした(ヒメハブは頭胴長約 15cm で孵化し、最小成熟雌は 43.6cm)。

参考: 西村昌彦・香村昂男(2000) . ヒメハブの産卵と孵化. 沖縄生物学会誌(38) :pp. 47-58

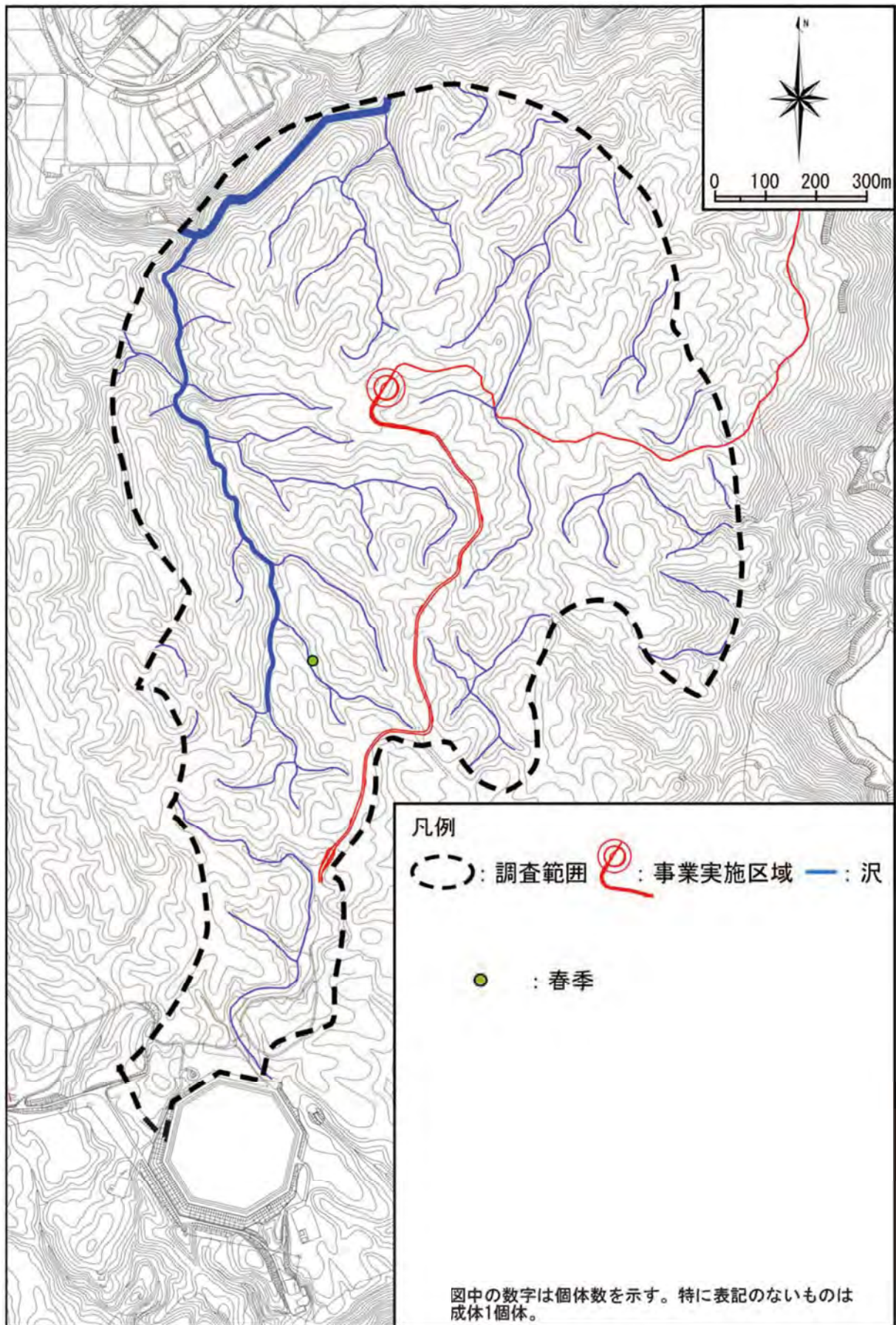


図 6.1.5-22 ハブの確認位置(G地区)

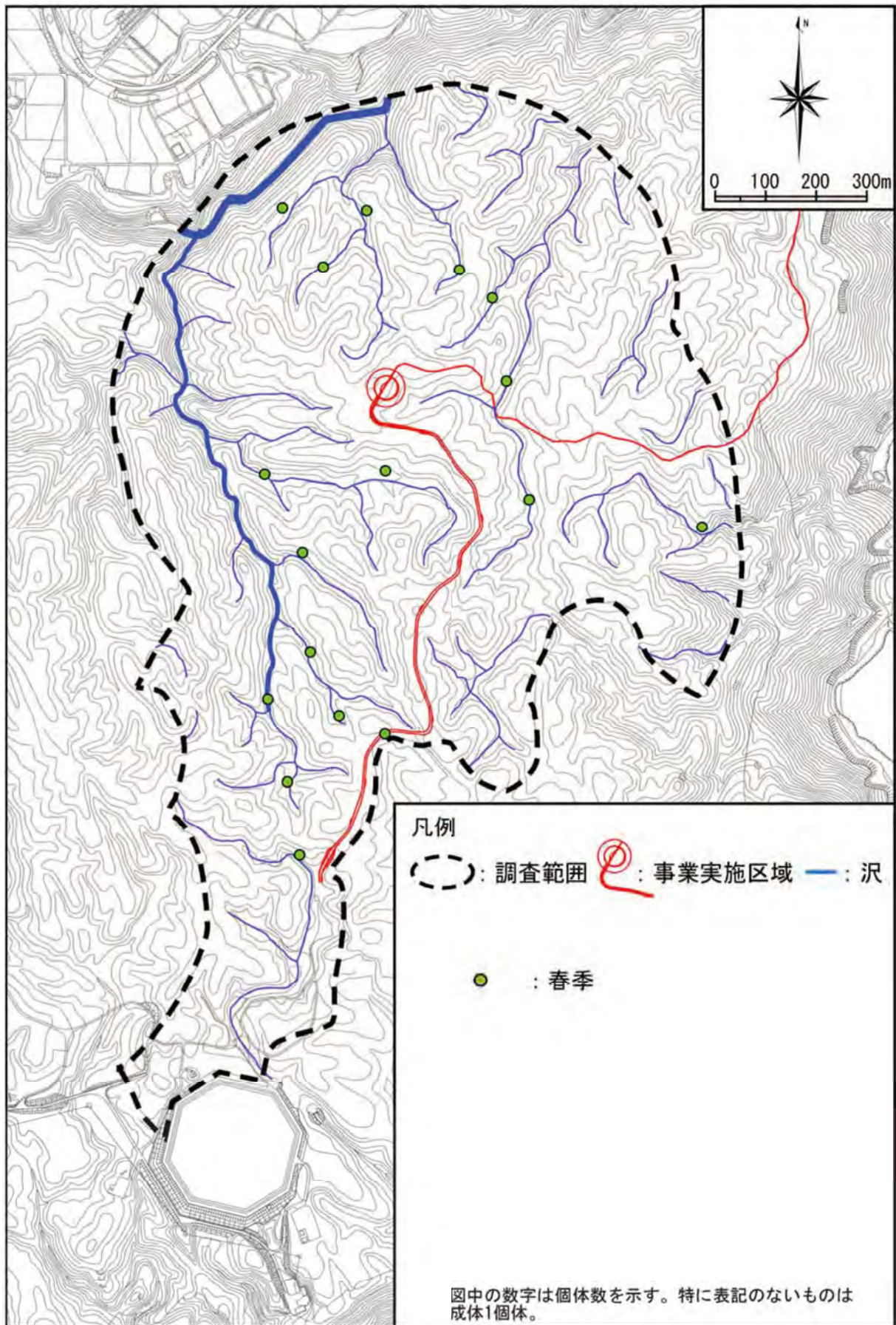


図 6.1.5-23 ヒメハブの確認位置(G地区)

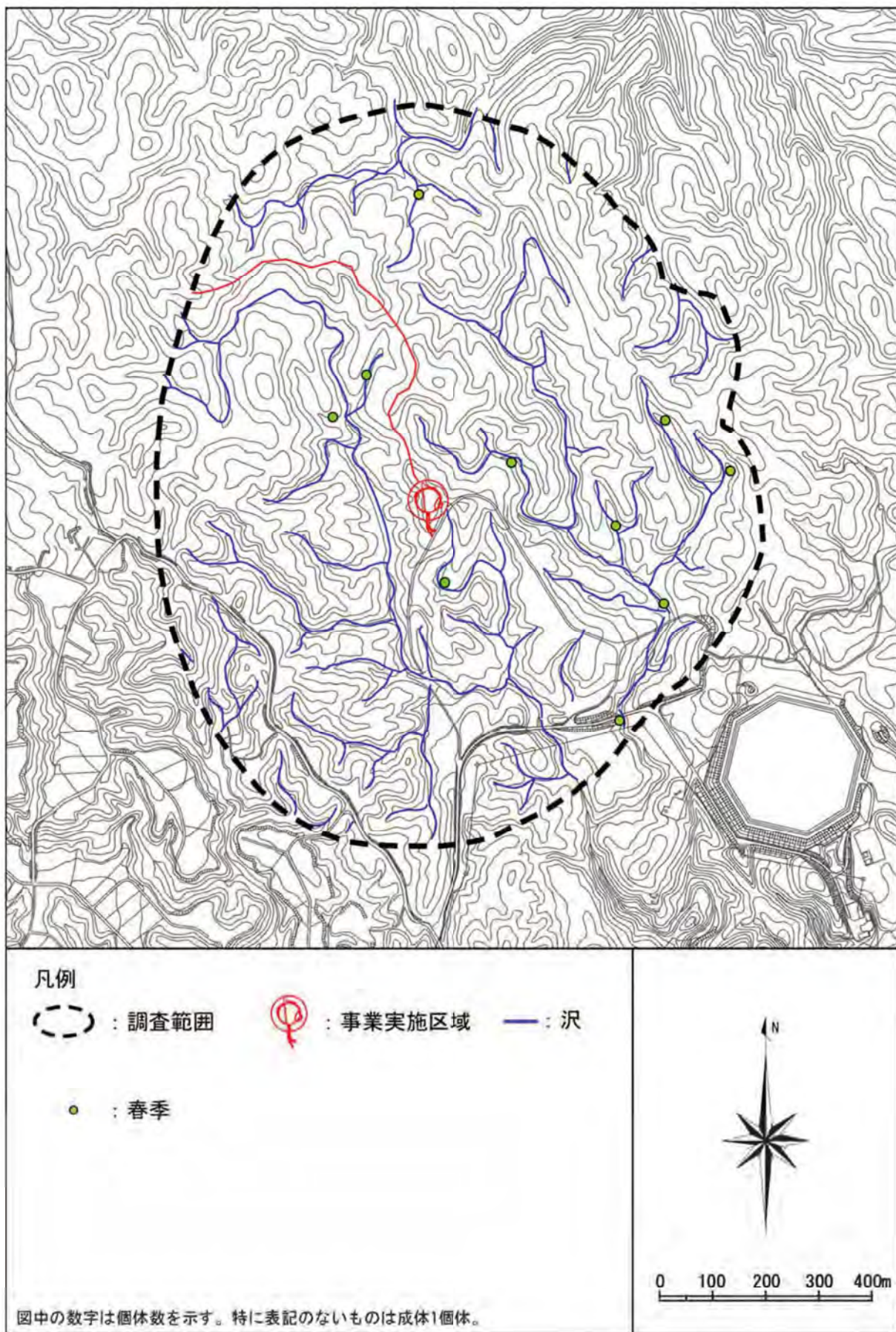


図 6.1.5-24 ヒメハブの確認位置(H地区)

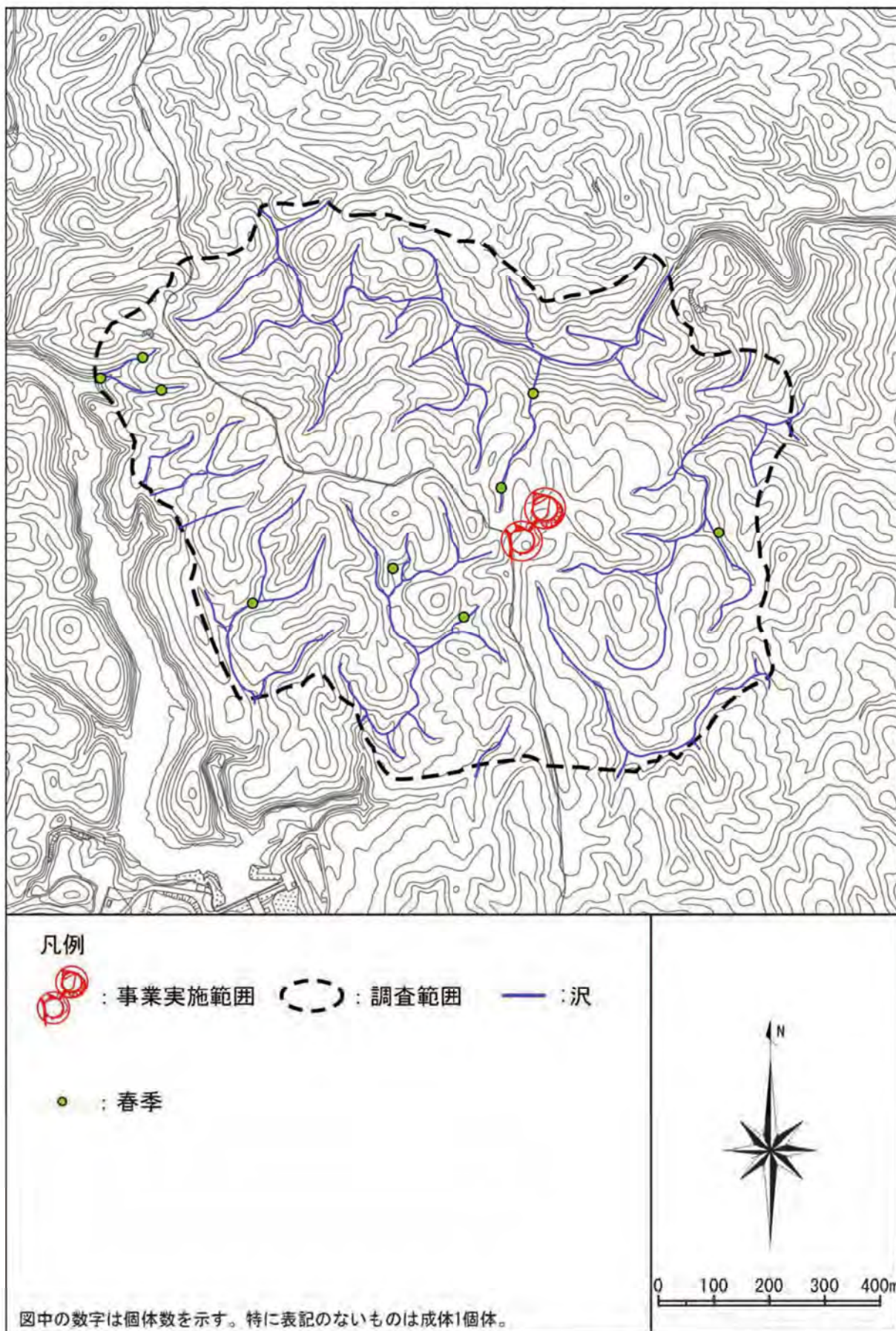


図 6.1.5-25 ヒメハブの確認位置 (N-1 地区)

i) オキナワイシカワガエル、ハナサキガエル、ホルストガエル、ナミエガエル

(a) G 地区

G 地区における山地性カエル類 4 種(オキナワイシカワガエル、ハナサキガエル、ホルストガエル、ナミエガエル)の確認状況を表 6.1.5-15 に、確認位置を図 6.1.5-26～図 6.1.5-28 に示した。

G 地区では、オキナワイシカワガエルは確認されなかった。

ハナサキガエルは□個体が確認された。着陸帯□では幼体□個体が確認され、周辺で繁殖したものと考えられた。

ホルストガエルは、□個体が確認された。各所において幼生、幼体が確認されており、広域で繁殖しているものと考えられた。ホルストガエルの繁殖期は7月～9月であり、河川の砂泥地に直径 30cm～40cm のくぼみを掘ってその中に産卵し、幼生の大半は秋に変態するが、一部は翌年の5月～6月頃に変態する^{注1)}。

ナミエガエルは□個体が確認された。着陸帯の□で卵塊が確認されているほか、□では幼体が確認されており、広域で繁殖しているものと考えられた。ナミエガエルは6月～8月にかけて繁殖し、河川の浅い砂泥地に産卵し、幼生は8月～9月頃に変態することが知られている^{注2)}。

【参考文献】

- 注1) 沖縄県(2017). 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータおきなわ)第3版-動物編-
注2) 前田憲男・松井正文(1993). 日本カエル図鑑(第3版);pp. 120-123.

表 6.1.5-15 オキナワイシカワガエル、ハナサキガエル、ホルストガエル、
ナミエガエルの確認状況一覧(G地区)

種名	区分	春季
オキナワイシカワガエル	成体	
	幼体	
	幼生	
	卵・産卵場	
	計	
	繁殖確認	
	繁殖可能性有	
ハナサキガエル	成体	
	幼体	
	幼生	
	卵・産卵場	
	計	
	繁殖確認	
	繁殖可能性有	
ホルストガエル	成体	
	幼体	
	幼生	
	卵・産卵場	
	計	
	繁殖確認	
	繁殖可能性有	
ナミエガエル	成体	
	幼体	
	幼生	
	卵・産卵場	
	計	
	繁殖確認	
	繁殖可能性有	

注1)「繁殖確認」とは、産卵(産卵場と推定される水場周りでの繁殖期の鳴き声含む)、卵(卵塊含む)、幼生、1cm前後の小型の幼体の確認と定義した。

注2)「繁殖可能性有」は、繁殖確認には至らないが、2cm前後及び比較的小型で移動性が高くないと考えられる幼体を確認した場合と定義した。



図 6.1.5-26 ハナサキガエルの確認位置(G 地区)



図 6.1.5-27 ホルストガエルの確認位置(G地区)



図 6.1.5-28 ナミエガエルの確認位置(G 地区)

(b) H 地区

H 地区における山地性カエル類 4 種(オキナワイシカワガエル、ハナサキガエル、ホルストガエル、ナミエガエル)の確認状況を表 6.1.5-16 に、確認位置を図 6.1.5-29～図 6.1.5-32 に示した。

オキナワイシカワガエルは成体 個体を確認された。

ハナサキガエルは 個体を確認された。着陸帯 では幼生 個体を確認され、周辺で繁殖したのと考えられた。

ホルストガエルは 個体を確認された。着陸帯 では幼生が確認されており、周辺で繁殖しているのと考えられた。

ナミエガエルは 個体を確認された。着陸帯の の の計 か所で卵塊が確認されており、周辺の河川では幼生が確認されていることから、広域で繁殖しているのと考えられた。

表 6.1.5-16 オキナワイシカワガエル、ハナサキガエル、ホルストガエル、
ナミエガエルの確認状況一覧(H地区)

種名	区分	春季
オキナワイシカワガエル	成体	
	幼体	
	幼生	
	卵・産卵場	
	計	
	繁殖確認	
	繁殖可能性有	
ハナサキガエル	成体	
	幼体	
	幼生	
	卵・産卵場	
	計	
	繁殖確認	
	繁殖可能性有	
ホルストガエル	成体	
	幼体	
	幼生	
	卵・産卵場	
	計	
	繁殖確認	
	繁殖可能性有	
ナミエガエル	成体	
	幼体	
	幼生	
	卵・産卵場	
	計	
	繁殖確認	
	繁殖可能性有	

注1)「繁殖確認」とは、産卵(産卵場と推定される水場周りでの繁殖期の鳴き声含む)、卵(卵塊含む)、幼生、1cm前後の小型の幼体の確認と定義した。

注2)「繁殖可能性有」は、繁殖確認には至らないが、2cm前後及び比較的小型で移動性が高くないと考えられる幼体を確認した場合と定義した。

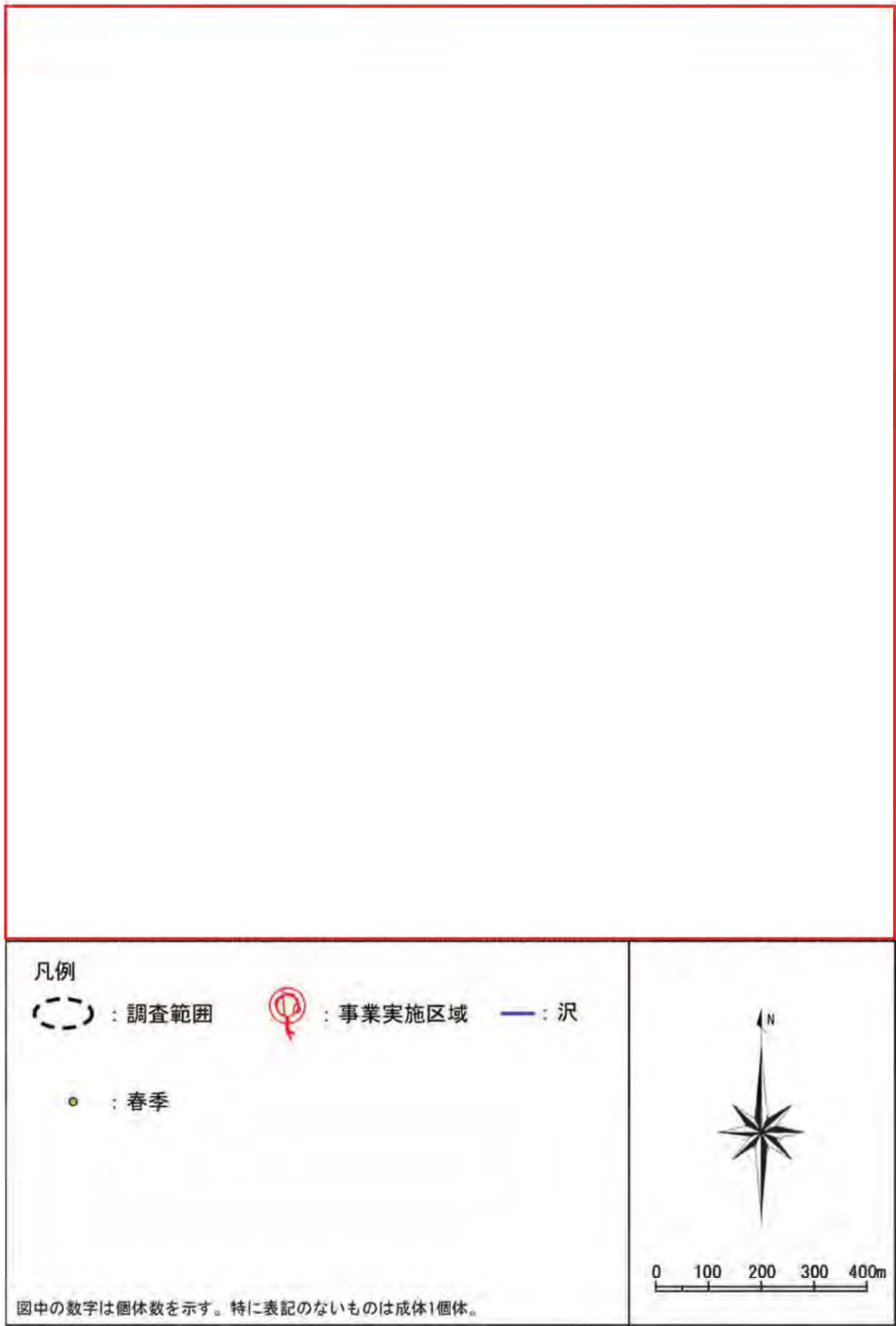


図 6.1.5-29 オキナワイシカワガエルの確認位置(H地区)

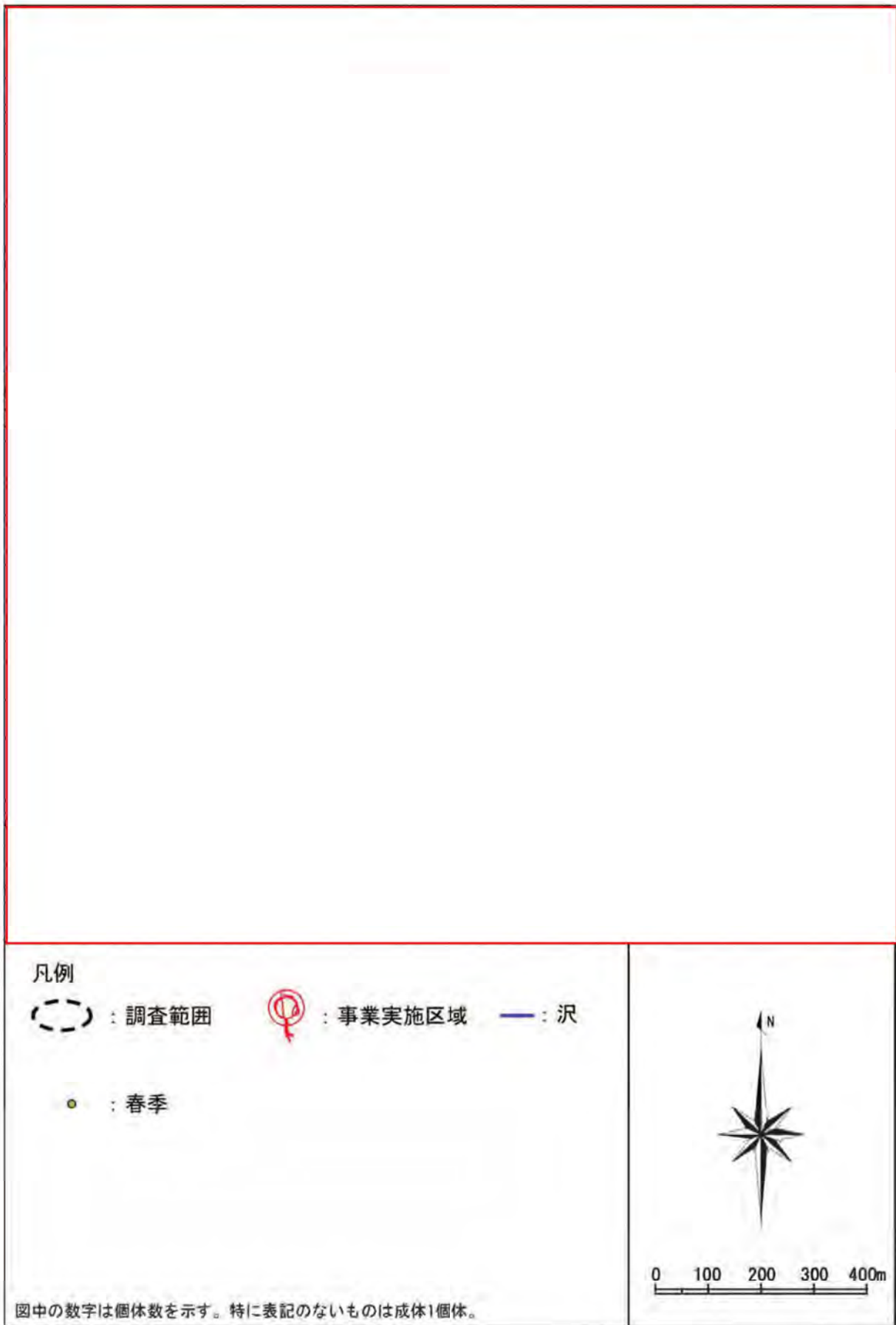


図 6.1.5-30 ハナサキガエルの確認位置(H地区)

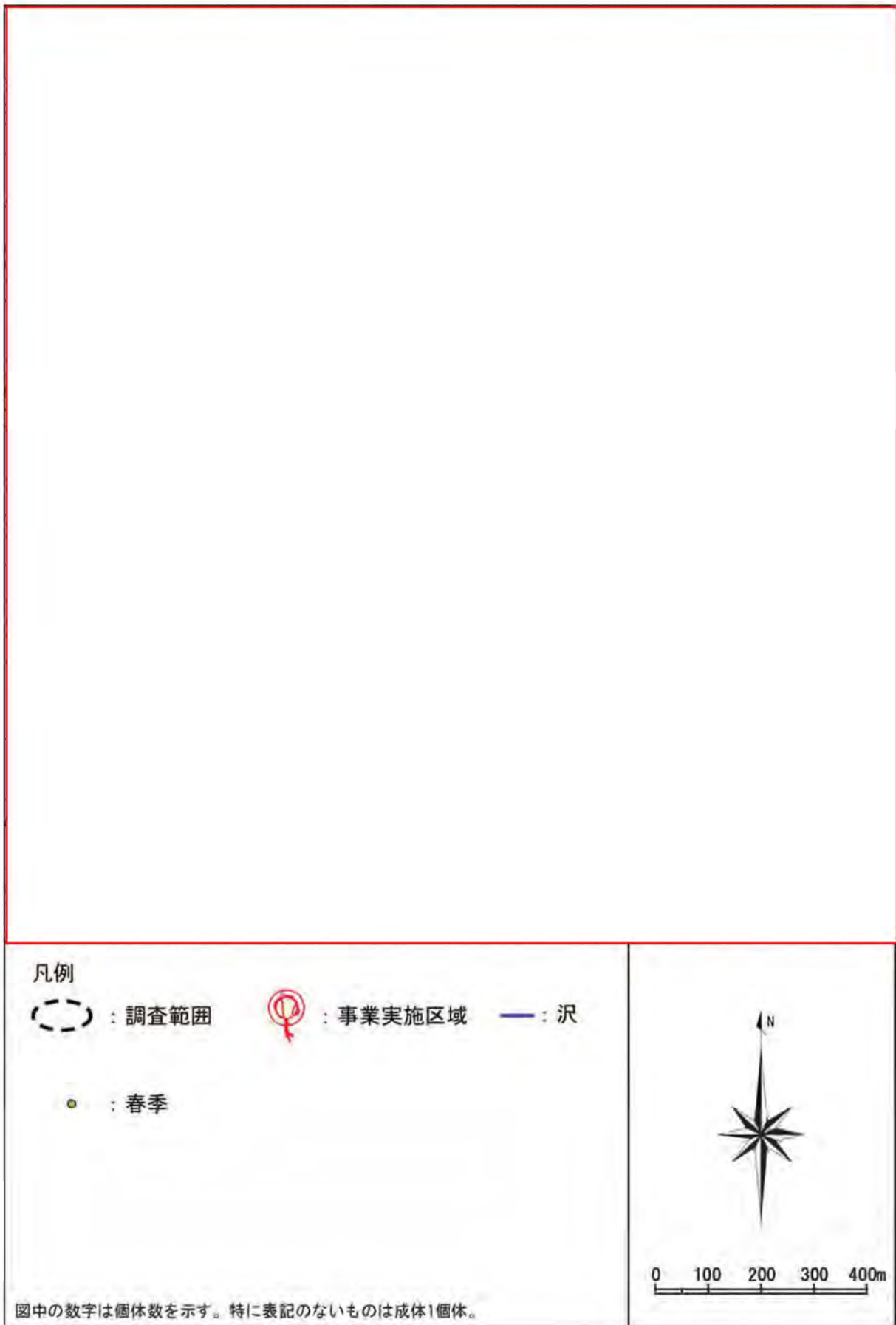


図 6.1.5-31 ホルストガエルの確認位置(H地区)

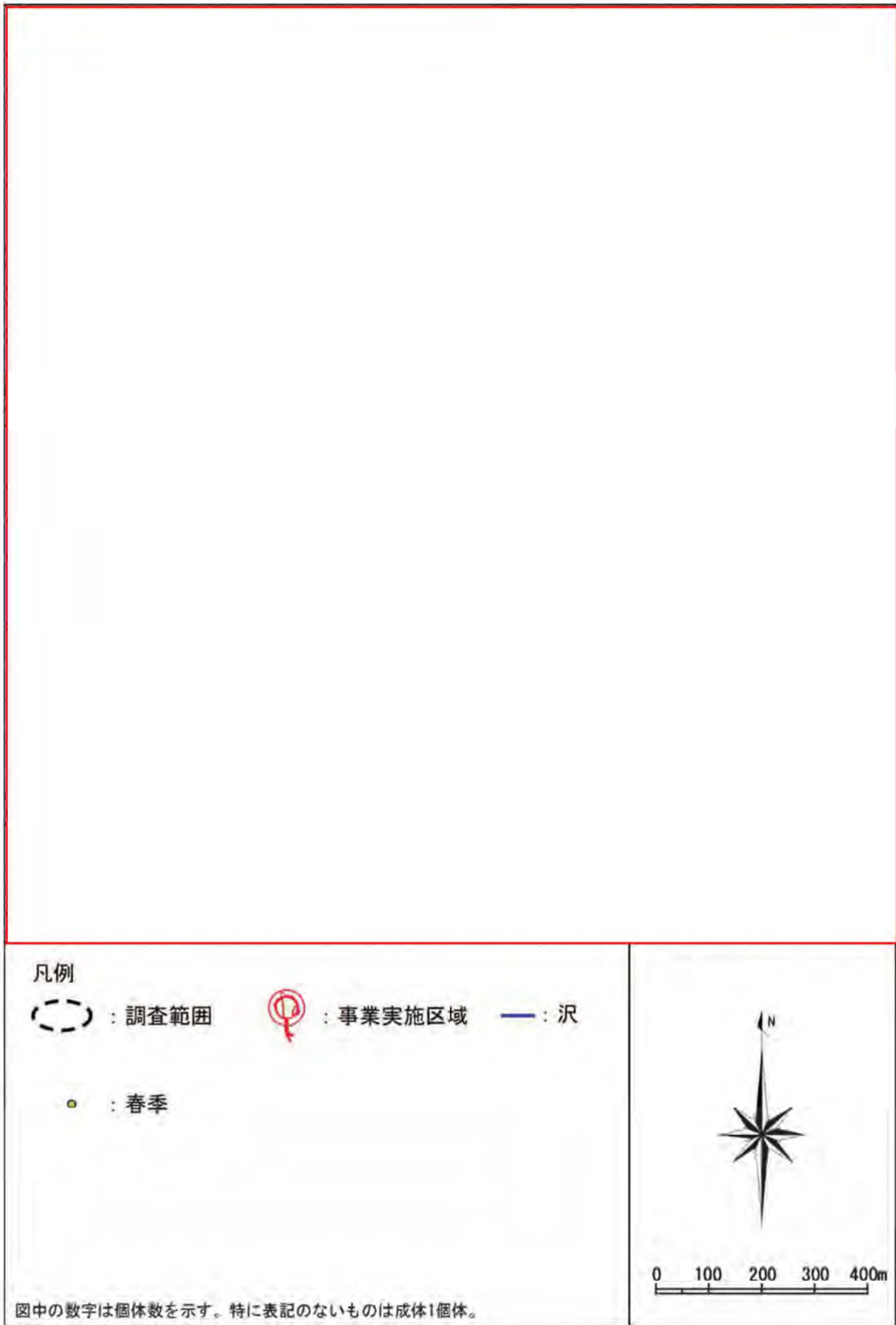


図 6.1.5-32 ナミエガエルの確認位置(H地区)

(c) N-1 地区

N-1 地区における山地性カエル類 4 種(オキナワイシカワガエル、ハナサキガエル、ホルストガエル、ナミエガエル)の確認状況を表 6.1.5-17 に、確認位置を図 6.1.5-33～図 6.1.5-36 に示した。

オキナワイシカワガエルは 個体を確認された。着陸帯 か所で幼生が確認されており、周辺で繁殖しているものと考えられた。

ハナサキガエルは 個体を確認された。着陸帯 で卵塊が確認されたほか、着陸帯 では幼体も確認されている。

ホルストガエルは 個体を確認された。卵塊の確認はないが、各所において幼生が確認されており、広域で繁殖しているものと考えられた。

ナミエガエルは 個体を確認された。着陸帯 で卵塊が確認された他、着陸帯 では幼生や幼体を確認されていることから、広域で繁殖しているものと考えられた。

表 6.1.5-17 オキナワイシカワガエル、ハナサキガエル、ホルストガエル
ナミエガエルの確認状況一覧(N-1 地区)

種名	区分	春季
オキナワイシカワガエル	成体	
	幼体	
	幼生	
	卵・産卵場	
	計	
	繁殖確認	
	繁殖可能性有	
ハナサキガエル	成体	
	幼体	
	幼生	
	卵・産卵場	
	計	
	繁殖確認	
	繁殖可能性有	
ホルストガエル	成体	
	幼体	
	幼生	
	卵・産卵場	
	計	
	繁殖確認	
	繁殖可能性有	
ナミエガエル	成体	
	幼体	
	幼生	
	卵・産卵場	
	計	
	繁殖確認	
	繁殖可能性有	

注 1) 「繁殖確認」とは、産卵(産卵場と推定される水場周りでの繁殖期の鳴き声含む)、卵(卵塊含む)、幼生、1cm 前後の小型の幼体の確認と定義した。

注 2) 「繁殖可能性有」は、繁殖確認には至らないが、2cm 前後及び比較的小型で移動性が高くないと考えられる幼体を確認した場合と定義した。